

# 次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業

令和4年度予算額 **58.4億円（62.9億円）**

## 事業の内容

### 事業目的・概要

- 今後の高い市場成長が期待されるバイオ医薬品について、日本国内で開発・生産できる体制を構築することは産業政策としても重要な課題です。
- また、個人差を踏まえたより効能の高い治療を実現する個別化医療の推進は、早期回復を通じて、患者のQOL向上・労働者の生産性向上、医療費増加の抑制等、国民経済への好影響が期待されます。
- こうした背景から、本事業では、個別化医療の推進に向けて、次世代治療・診断実現のための基盤技術の開発を支援します。具体的には、
  - ①新モダリティとして注目されるRNAを標的とした医薬品の創薬技術
  - ②国際競争力のある次世代抗体医薬品の製造技術
  - ③奏効率の低い抗がん剤等に対する患者層別化マーカー探索技術
  - ④腸内マイクロバイーム制御による次世代創薬技術
 等の研究開発を進めます。これを通じて、将来の感染症への備えとしてバイオ医薬品の国内開発・製造基盤の確立にもつなげていきます。

### 成果目標

平成27年度から令和8年度までの12年間の事業であり、我が国発の診断技術・創薬基盤技術の実用化を図ります。具体的には、

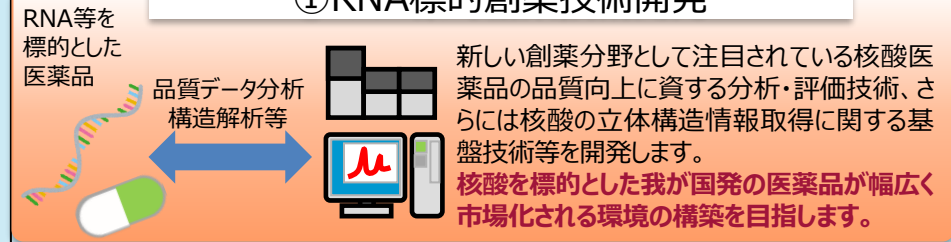
- 令和10年度までに、特定の医薬品の奏効率を向上させる診断薬・診断機器の薬事申請3件
- 令和10年度までに、開発した技術を利用したマイクロバイーム改善医薬品シーズの前臨床試験の実施件数3件 等を目指します。

### 条件（対象者、対象行為、補助率等）

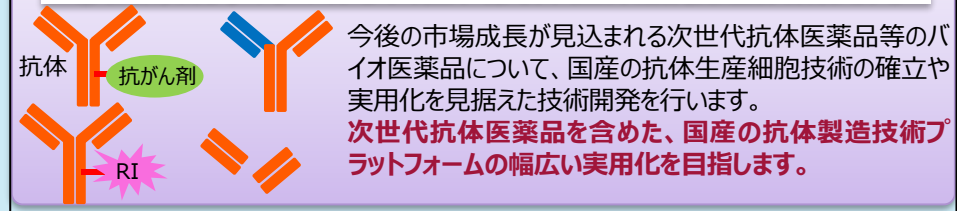


## 事業イメージ

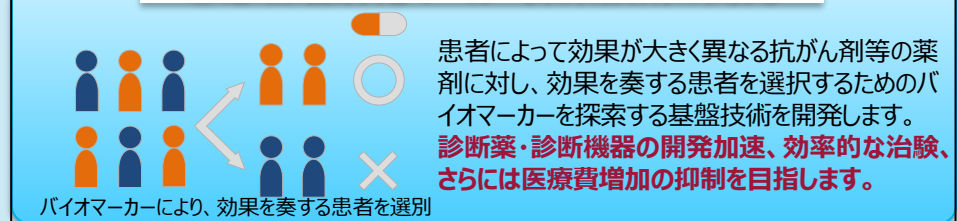
### ①RNA標的創薬技術開発



### ②国際競争力のある次世代抗体医薬品製造技術開発



### ③患者層別化マーカー探索技術の開発



### ④腸内マイクロバイーム制御による次世代創薬技術開発

